



平成25年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月14日

上場取引所 大

上場会社名 プレジジョン・システム・サイエンス株式会社

コード番号 7707 URL <http://www.pss.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 田島 秀二

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経営統括本部長

(氏名) 秋本 淳

TEL 047-303-4800

四半期報告書提出予定日 平成25年5月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年6月期第3四半期の連結業績(平成24年7月1日～平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第3四半期	2,849	13.7	△182	—	△135	—	△196	—
24年6月期第3四半期	2,506	6.3	△143	—	△144	—	△159	—

(注) 包括利益 25年6月期第3四半期 △78百万円 (—%) 24年6月期第3四半期 △176百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年6月期第3四半期	△2,152.97	—
24年6月期第3四半期	△1,746.90	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年6月期第3四半期	5,130	2,751	45.7	25,690.96
24年6月期	4,584	2,613	53.6	26,947.89

(参考) 自己資本 25年6月期第3四半期 2,344百万円 24年6月期 2,459百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年6月期	—	0.00	—	—	—
25年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年6月期の連結業績予想(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,100	16.5	△110	—	△60	—	△130	—	△1,424.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 1社 (社名) エヌピーエス(株) 、 除外 1社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期連結会計期間より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、四半期決算短信(添付資料)5ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年6月期3Q	91,260 株	24年6月期	91,260 株
25年6月期3Q	— 株	24年6月期	— 株
25年6月期3Q	91,260 株	24年6月期3Q	91,260 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	10
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(5) セグメント情報等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による経済環境の悪化からは回復の兆しが見られたものの、歴史的な円高を始めとする厳しい環境が、本格的な景気回復を阻むように重くのしかかった年でありました。しかしながら、昨年末からは、新政権による積極的な経済政策の推進により、行き過ぎた円高の修正や企業業績の回復期待も膨らみ、景気好転への兆しが見えてまいりました。

このような状況の中、当社グループは、バイオ関連業界において、遺伝子やタンパク質の解析や診断に利用される自動化装置の製造販売、それら装置に使用される試薬や反応容器などの消耗品類の製造販売に注力してまいりました。

当社グループの主力製品は、血液や組織細胞から遺伝子やタンパク質を抽出・精製するための自動化装置（DNA自動抽出装置）であり、当社の特許技術を利用したオリジナル製品群であります。これら製品は、大手企業へのOEM販売（相手先ブランドによる販売）を中心にワールドワイドに展開しております。主要なOEM先は、ロシユグループ、キアゲングループ、三菱化学メディエンス(株)、ライフテクノロジーズ社、ベックマン・コールター社、ナノストリング社などとなっております。

また、近年はOEMばかりではなく、自社ブランドによる販売展開にも注力しております。

当第3四半期連結累計期間は、新規OEM先となったディアソリン社向けの分子診断装置が販売開始されたこと、アボットグループに対する新たなOEM製品の開発案件の進捗、エリテックグループとの遺伝子診断装置の開発及び販売提携の契約など、新規事業に関する大きな進展が認められました。

こういった事業活動の結果、売上高2,849百万円（前年同期比13.7%増）、売上総利益930百万円（前年同期比1.9%増）となりました。今年に入り円安効果もあり、売上総利益率は、第2四半期連結累計期間と比べて1.4ポイントの改善となりましたが、今年度前半での円高や開発案件でのコスト増などの影響から、前年同期比では3.8ポイントの悪化となりました。

一方で、当連結会計年度より、秋田の製造工場であるエヌピーエス(株)が連結対象に加わったことから、販売費及び一般管理費は1,113百万円（前年同期比5.4%増）と若干増加し、営業損失△182百万円（前年同期は営業損失△143百万円）となりました。

また、為替差益54百万円の発生などから、経常損失△135百万円（前年同期は経常損失△144百万円）となりました。

その他、法人税等調整額13百万円や少数株主利益36百万円の計上などにより、四半期純損失△196百万円（前年同期は四半期純損失△159百万円）となりました。

取引先別の販売状況は、下表のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
ロシユグループ	615	24.6	859	30.2	39.6	806	22.9
キアゲングループ	692	27.6	459	16.1	△33.7	969	27.6
その他	1,197	47.8	1,531	53.7	27.8	1,743	49.5
合計	2,506	100.0	2,849	100.0	13.7	3,520	100.0

ロシユグループ向け販売は、既存製品が順調に推移したことに加え、昨年末の開発契約に伴う手数料収入もあり、売上高859百万円（前年同期比39.6%増）を確保いたしました。

キアゲングループ向け販売は、売上高459百万円（前年同期比33.7%減）と低調な推移となりました。

その他に関しましては、当連結会計年度より子会社となったエヌピーエス(株)の売上高345百万円（当社グループ以外の外部顧客に対する売上高）が加わったことから、売上高1,531百万円（前年同期比27.8%増）となりました。

製品区分別の売上高は、下表のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		対前年同期 増減率	(参考) 前連結会計年度	
	金額	構成比	金額	構成比		金額	構成比
	百万円	%	百万円	%	%	百万円	%
DNA自動抽出装置等	1,377	54.9	1,251	43.9	△9.2	2,051	58.3
試薬・消耗品類	713	28.5	681	23.9	△4.5	898	25.5
メンテナンス関連	243	9.7	220	7.7	△9.4	320	9.1
その他	172	6.9	696	24.5	304.6	249	7.1
合計	2,506	100.0	2,849	100.0	13.7	3,520	100.0

① DNA自動抽出装置等

当区分は、当社の特許技術を利用した自動化装置の区分であり、ロシュグループやキアゲングループ等に供給しているDNA自動抽出装置の他、三菱化学メディエンス(株)に供給している免疫化学発光測定装置や自社ブランド展開しているタンパク質自動精製装置などがあります。

当第3四半期連結累計期間は、ロシュグループとの取引が回復した一方で、キアゲングループや三菱化学メディエンス(株)向け販売が低調に推移したことなどから、売上高1,251百万円（前年同期比9.2%減）となりました。

四半期毎の販売推移は、下表のとおりであります。販売単価は、為替の影響や機種により価格帯が異なることなどから、変動しているものであります。

	前連結会計年度				当連結会計年度		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
販売台数（台）	243	331	207	405	167	272	282
販売金額（千円）	456,905	544,719	375,598	674,114	322,052	446,709	482,385
販売単価（千円）	1,880	1,645	1,814	1,664	1,928	1,642	1,710

② 試薬・消耗品類

当区分は、DNA抽出やタンパク精製などに利用される各種の試薬及び当社装置の使用に伴い消費される反応容器などの専用プラスチック消耗品の区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社で試薬を製造販売しておりますが、プラスチック消耗品類は当社から購入する契約となっております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高681百万円（前年同期比4.5%減）と前年同期比で減少となりましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

③ メンテナンス関連

当区分は、装置メンテナンスやスペアパーツ（交換部品）販売などの区分であります。主要なOEM先は、OEM先が自社でメンテナンス対応しておりますが、スペアパーツは当社から購入する契約となっております。

当第3四半期連結累計期間は、売上高220百万円（前年同期比9.4%減）と前年同期比で減少となりましたが、当区分の売上高は、基本的には装置の累計出荷台数に応じて売上拡大が見込める性質があるため、順調な伸長が期待できるものと考えております。

④ その他

当区分は、上記①②③のいずれにも該当しない売上を区分しています。主には、研究施設などで利用される特注自動化機器や顧客要求に基づく新規の製品開発、他社製品の販売代理活動などの売上高に加え、当連結会計年度より、秋田県に所在する装置・消耗品の製造工場であるエヌピーエス(株)の売上高（当社グループ以外の外部顧客に対する売上高）が計上されています。エヌピーエス(株)は、当社と日本パルスモーター(株)が共同運営している工場であります。

当第3四半期連結累計期間は、売上高696百万円（前年同期比304.6%増）となりました。エヌピーエス(株)の売上高345百万円の他、ディアソリン社やアボットグループなどの新規OEM先との受託開発契約に基づく売上やロシユグループとの開発契約に基づく手数料収入などが計上されています。当区分の売上高は、開発案件の受注状況などにより大きく変動いたします。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 日本

当第3四半期連結累計期間の日本の売上高は2,384百万円（前年同期比15.3%増）となり、その内、外部顧客への売上高は956百万円（前年同期比32.3%増）となりました。エヌピーエス(株)の売上が加わったことが大きく影響いたしました。一方、ディアソリン社やアボットグループなどの受託開発や自社開発案件の推進により、営業費用は2,541百万円（前年同期比20.9%増）と増加する結果となり、営業損失△157百万円（前年同期は営業損失△34百万円）となりました。

② 米国

当第3四半期連結累計期間の米国の売上高は673百万円（前年同期比64.5%増）となりました。ライフテクノロジー社やナノストリング社が前年同四半期を上回る実績となったことから増収を確保いたしました。一方、営業費用は619百万円（前年同期比51.1%増）となり、営業利益54百万円（前年同期は営業損失△0百万円）となりました。

③ ドイツ

当第3四半期連結累計期間のドイツの売上高は1,257百万円（前年同期比8.7%減）となりました。ロシユグループとの取引は堅調に推移したものの、キアゲングループとの取引は低調で、全体としては減収となりました。一方、営業費用は1,252百万円（前年同期比7.6%減）となり、営業利益4百万円（前年同期比79.0%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は5,130百万円となり、前連結会計年度末に比べて545百万円の増加となりました。現金及び預金が267百万円増加、たな卸資産が272百万円増加、有形固定資産が317百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が260百万円減少、投資有価証券の減少等によって投資その他の資産が97百万円減少いたしました。資産増加の主な要因は、当連結会計年度から子会社となったエヌピーエス(株)による影響であります。受取手形及び売掛金の減少に関しては、前連結会計年度末が大きく膨らんでいたことが要因であり、投資その他の資産の減少は、主にエヌピーエス(株)が持分法適用関連会社から連結子会社になったことによる影響であります。

負債合計は2,378百万円となり、前連結会計年度末に比べて407百万円の増加となりました。流動負債において、支払手形及び買掛金が140百万円増加、短期借入金が300百万円増加、1年内返済予定の長期借入金が110百万円増加した一方、固定負債において長期借入金が215百万円減少いたしました。支払手形及び買掛金の増加に関しては、主にエヌピーエス(株)の子会社化による影響であります。

純資産合計は2,751百万円となり、前連結会計年度末に比べて138百万円の増加となりました。四半期純損失の発生により利益剰余金が196百万円減少した他、為替換算調整勘定が81百万円の増加、主にエヌピーエス(株)の子会社化に伴い少数株主持分が252百万円増加いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間は、売上高2,849百万円、四半期純損失△196百万円という厳しい結果となりました。残る第4四半期においては、DNA自動抽出装置等の販売見通しが良好であること、また、ディアソリン社やアボットグループ向けの大口の開発売上が予定していること、エリテックグループに対しても遺伝子診断装置のプロトタイプ納品を予定していることなどから、現在の業績予想は達成できるものと考えております。したがって、現時点においては業績予想の変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年7月31日付で当社の持分法適用関連会社であったエヌピーエス(株)の株式を追加取得し、第1四半期連結累計期間より連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区分することが困難な会計方針の変更

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,762,392	2,030,102
受取手形及び売掛金	864,083	603,192
商品及び製品	658,077	831,114
仕掛品	94,887	106,026
原材料及び貯蔵品	33,257	121,813
繰延税金資産	38,480	28,682
その他	121,795	144,543
貸倒引当金	△2,588	△2,459
流動資産合計	3,570,387	3,863,015
固定資産		
有形固定資産	736,585	1,054,210
無形固定資産	20,650	53,512
投資その他の資産	256,516	159,281
固定資産合計	1,013,752	1,267,004
資産合計	4,584,140	5,130,020
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	214,542	355,346
短期借入金	—	300,000
1年内返済予定の長期借入金	436,241	546,366
リース債務	9,768	4,077
未払法人税等	11,626	9,719
賞与引当金	5,839	48,411
その他	163,719	138,653
流動負債合計	841,737	1,402,574
固定負債		
長期借入金	1,089,344	874,130
リース債務	3,832	5,454
繰延税金負債	35,250	41,376
退職給付引当金	—	54,481
その他	196	105
固定負債合計	1,128,624	975,548
負債合計	1,970,361	2,378,122

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,217,194	2,217,194
資本剰余金	251,999	251,999
利益剰余金	151,241	△45,238
株主資本合計	2,620,434	2,423,954
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△161,170	△79,397
その他の包括利益累計額合計	△161,170	△79,397
少数株主持分	154,514	407,341
純資産合計	2,613,779	2,751,897
負債純資産合計	4,584,140	5,130,020

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)
売上高	2,506,254	2,849,859
売上原価	1,593,681	1,919,532
売上総利益	912,573	930,327
販売費及び一般管理費	1,056,221	1,113,095
営業損失(△)	△143,648	△182,767
営業外収益		
受取利息	448	511
為替差益	—	54,125
持分法による投資利益	1,266	—
助成金収入	11,292	3,136
保険返戻金	1,544	294
その他	2,465	3,428
営業外収益合計	17,019	61,496
営業外費用		
支払利息	11,980	13,740
為替差損	6,054	—
その他	132	2
営業外費用合計	18,167	13,742
経常損失(△)	△144,796	△135,013
特別利益		
固定資産売却益	559	—
投資有価証券売却益	—	33
新株予約権戻入益	1,544	—
負ののれん発生益	—	13,449
特別利益合計	2,104	13,482
特別損失		
固定資産除却損	2	6
投資有価証券評価損	—	12,364
段階取得に係る差損	—	9,141
特別損失合計	2	21,512
税金等調整前四半期純損失(△)	△142,694	△143,043
法人税、住民税及び事業税	13,080	3,834
法人税等調整額	130	13,078
法人税等合計	13,211	16,913
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△155,905	△159,956
少数株主利益	3,516	36,523
四半期純損失(△)	△159,422	△196,480

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△155,905	△159,956
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△20,862	81,772
その他の包括利益合計	△20,862	81,772
四半期包括利益	△176,768	△78,184
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△180,285	△114,707
少数株主に係る四半期包括利益	3,516	36,523

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成24年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	723,119	407,935	1,375,199	2,506,254	—	2,506,254
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,344,904	1,412	2,361	1,348,677	△1,348,677	—
計	2,068,023	409,347	1,377,561	3,854,932	△1,348,677	2,506,254
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△34,865	△365	21,298	△13,932	△129,715	△143,648

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△129,715千円には、セグメント間取引消去△9,267千円及び配賦不能営業費用△120,448千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年7月1日至平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	米国	ドイツ	計		
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	956,687	638,799	1,254,372	2,849,859	—	2,849,859
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,428,130	34,585	3,043	1,465,759	△1,465,759	—
計	2,384,817	673,385	1,257,416	4,315,619	△1,465,759	2,849,859
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△157,102	54,197	4,470	△98,434	△84,333	△182,767

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△84,333千円には、セグメント間取引消去21,063千円及び配賦不能営業費用△105,397千円が含まれており、その主なものは、親会社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、エヌピーエス(株)の株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当第3四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「日本」セグメントにおいて521,087千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれんの発生益)

第1四半期連結累計期間より、持分法適用関連会社であるエヌピーエス(株)の発行済株式を追加取得し、連結子会社としております。これにより、「日本」セグメントにおいて13,449千円の負ののれん発生益を計上しております。

4. 報告セグメントの変更等に関する情報

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更したため、報告セグメントの減価償却の方法を改正後の法人税法に基づく方法に変更しております。

これによるセグメント損益への影響は軽微であります。